



新名神工事前の船坂川沿いの雑木林が広がっていた。



船坂川調整池全景



船坂川調整池 吐口



掘込み河川法面の真新しい放流口



第7堰～甲武橋間に砂州が広がり砂漠状態になっていた



16号台風の出水は砂州の影響か挺水護岸に達した。

道場から、船坂川に沿って百丈岩へ向かうコースは、自然豊かな雑木林が広がり、手頃な昆虫採取場所で自然観察に訪れる人も多かった。新名神工事で豊かな雑木林は切り払われた後の斜面には堤防で良く見かける、スズメガヤなど、イネ科植物でも植えて緑は戻るだろうが、雑木林の持っていた流出抑制機能低下は否めず大きな調整池を作らざるを得なかったのだろう。調整池の規模が失われたものの大きさを示しているように思える。

昔から、あばれ川と恐れられてきた武庫川、特に下流部は非常に土砂堆積が激しく、数年前は殆ど平にされた河原に砂州が広がり、ツルヨシが根付き、雑草が繁茂、続いて柳やセンダンの木が根付き一層砂が溜まりやすくなる。何の被害も発生しなかった 16 号台風規模の出水でも、この間は低水護岸に達するまでに至った。今年は北と南で大規模な水害が発生したが、何故か武庫川流域は被害を生じるような洪水は発生しなかったが、備えは怠れない。